

義務教育学校の設置に関する検討委員会だより ③

高谷中学校ブロック 義務教育学校の設置に関する検討委員会

第3回検討委員会の概要をお知らせいたします。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2部に分けて開催しました。

- 1 日 時 令和2年6月27日(土) 第1部 13時30分～14時25分
第2部 14時30分～15時25分
- 2 会 場 信篤公民館
- 3 構 成 ・委員長：大学教授
(19名) ・委員：各学校(高谷中・信篤小・二俣小)の学校運営協議会代表
- 4 内 容 ・主に課題の共通理解と、二俣小学校移転の提案を行いました。
- 5 説明事項

○ 教育委員会の説明事項は概要を記載しています。「会議資料」をホームページに掲載していますので、詳しくは、そちらをご覧ください。

※ 教育委員会⇒分野別情報「学校教育・学校施設」⇒義務教育学校の設置に関する検討委員会

(1) 検討委員会及び保護者アンケートからの課題の共通理解について

① 第2回検討委員会で協議された「義務教育学校の設置に係る課題」について

○二俣小学校の移転に伴う課題	・移転の必要性 ・通学の安全性 ・学区、指定校変更制度 ・小規模校の良さ
○義務教育学校の設置に伴う課題	・通学路の距離や安全 ・通学区域の扱い ・9年間の継続性 ・一体型校舎の設置場所
○施設分離型による小中一貫教育の取組に伴う課題	・移転後の校舎利用 ・学校運営、教職員の負担、教育活動 ・学校外(放課後保育クラブ、施設開放)
○小中一貫教育の周知に係る課題	・内容の詳細 ・塩浜学園の詳細

② 小中一貫教育の考え方

○小中一貫教育の必要性

・未来を担う子どもに、これからの社会をよりよく生きていく力を育むためには、義務教育9年間を形成する小・中学校が互いに協力し、責任を共有して必要な資質・能力の育成を図ることが必要。

○小中一貫教育とは

- ・小中一貫教育は、小・中学校間にある授業形態や生徒指導手法の違いを統一したり、どちらかへ合わせたりすることではなく、指導の方向性に一貫性を持たせること、そして、発達段階に応じて、9年間の指導を系統的且つ段階的に行うことを目指しています。
- ・小中一貫教育の本質は、指導内容や方向性に一貫性を持たせ、小・中学校の教職員が互いに協力して、責任を共有することによって、発達段階に応じた指導を、系統的且つ段階的に行い、児童生徒の「生きる力」を高めていくところにあります。

○学習指導の事例(事例の詳細は「会議資料」をご覧ください)

- ・小学校と中学校の学習のつながりを理解したことによって、授業改善が図られ、「分る授業」へと結びついていった事例

○生徒指導の事例(事例の詳細は「会議資料」をご覧ください)

- ・子供の成長の連続性を踏まえて、指導の改善を図ることの大切さを感じた事例
- ・小・中学校の先生が、子供たちのために力を合わせ、協力して取り組んだ結果、子供たちにとってより良い方向へとつながった事例

③ 施設一体型の必要性

- ・小中一貫教育を進めるためには、小・中学校の教職員が、共に話し合い、協働して指導の工夫・改善を図ることが重要です。しかし、施設分離型の校舎では、合同会議や合同研修会の開催頻度が、施設一体型に比べて低い状況が全国的にも見られています。このため、小中一貫教育を通して指導上の効果を高めるためには、施設一体型の教育環境が求められます。

(2) 二俣小学校の移転について

① 立地の課題について

- ・都市計画では、二俣小学校の地区は工業流通業務地の形成を行う方針となっており、将来的にも住宅地の形成は難しくなっています。
- ・一方、信篤小学校、高谷中学校のある地区は、課題に対応した土地利用を誘導する方針になっており、将来的には新たな市街地を形成する地区として位置付けています。
- ・二俣小学校の南側は、ほとんどが工業、倉庫などで、住宅がほとんどありません。住宅系用途地は、京葉道路周辺や川沿い、原木中山駅周辺にあり、二俣小学校は、防衛省官舎の移転によって住宅地から離れた場所での立地となっています。

② 小規模化の課題について

○児童生徒数の減少

- ・令和2年度の入学率は、信篤小が90.4%、二俣小が67.5%、高谷中が68.4%となっています。
- ・高谷中学校から第六中学校へ30人、信篤小学校から鬼高小学校へ14人、二俣小学校から信篤小学校へ17人が指定校変更をしています。その理由は「学校が近いから」が最も多くなっています。
- ・市川市公共施設等総合管理計画が示す「平成27年度から平成42年度の変化率」では、二俣小学校区も信篤小学校区も、対象年齢の減少率が45%以上となっています。
- ・二俣小学校区の中で一番多くの児童が住んでいる「原木3丁目」は、令和2年度の「104人」が、10年後には「70名」となり、約7割に減少すると推計しています。

○小規模化の課題

- ・市川市の調査（平成27年度）では、小学校では、学級数が少ないほど自尊意識が低い傾向が見られています。また、学級数が少ないほど、教職員が学校外の研修に参加する割合が少なくなっています。
- ・実際に教育活動に携わる教職員においても、学校行事や学年活動を行う上で、学級数が少ないことによる課題を感じている傾向がうかがえました。職員数の少ない学校ほど、教員一人にかかる負担が大きくなっています。
- ・一方、学校規模が小さいほど、教職員の子供と向き合う時間は多くなるなど、小規模校の良さも見られています。

(3) 課題の解決策

○二俣小学校の移転に伴う課題

- ・通学に係る課題
- ・放課後保育クラブへの通所やお迎えに係る課題

○課題の解決策

- ・コミュニティバスまたはスクールバスの導入を検討していきます。
- ・今後、運行時間やルートなどについて、循環型のように定時運行する方法も含めて、様々な要望をいただきながら、調整していきます。

(4) 移転後のパターン

- ・例1は、二俣小学校を高谷中学校の土地に移転し、二俣小学校及び高谷中学校の2校で義務教育学校をスタートするパターンです。この場合、信篤小学校は単独の運営となります。
- ・例2は、同じく二俣小学校を高谷中学校に移転し、信篤小学校を含めた3校で義務教育学校をスタートするパターンです。二俣・高谷校舎と信篤校舎の施設分離型の運営となります。
- ・例3は、同じく二俣小学校は移転しますが、信篤校舎に二俣小学校と信篤小学校の低・中学年児童を、二俣・高谷校舎に高学年と中学生が通う義務教育学校をスタートするパターンです。この案は、第2回の検討委員会でご提案頂いたものです。
- ・最終的には、3校の施設一体型義務教育学校を設置します。

6 協議内容 (○：委員長及び委員 ●：事務局)

※協議の内容は、意見等を出来るだけ詳しく記載し、検討委員会の様子をお伝えすることとしています。

【第1部】

- 高谷中に二俣小が移転することが中心のようなお話ですが、信篤小に二俣小を移転するという話はないのでしょうか。
- 信篤小と二俣小を一緒にする場合には、高谷中学校も一緒にすることになります。小中一貫教育の実施が第一にありますので、3校を一つの学校として運営していきたいと思っています。
- 二俣小が高谷中に移転する前に、信篤小とは一緒にならないのですか。面積などの問題があるのでしょうか。
- 面積などについては精査をしていないので、今日はお答えできませんが、出来れば3校で一貫教育が出来るような形で進めたいと思っています。例えば例3にありましたように、信篤小の4年生または5年生までが信篤校舎で、5年生または6年生から中学生が高谷校舎で小中一貫教育を進める形もあります。
- 信篤小学校と二俣小学校を一緒にする案については、全体の話の中で、メリット、デメリットも含めて検討しても良いのではないかと思います。
- 次回「案」として、面積などの詳細も合わせてお持ちします。
- 説明会については、全日警ホールでやることとなっていますが、信篤公民館やそれぞれの学校でも予定されていないのでしょうか。
- 各学校でも開催したいと思っています。但し今回はコロナ禍の関係で、暑い時期に広いスペースが取れる所ということで、会場を設定させて頂いています。その後、各学校でも開催出来ればと考えております。
- 信篤や二俣の学校でも開催したらどうかということですから、また、そういうことで検討してください。説明会を経て、この検討会で方向性を検討していきたいと思っています。

【第2部】

- 信篤小の指定校変更の制限解除というお話があったのですが、なぜ二俣小周辺の官舎がなくなるのが見えているのに、制限を設定しなかったのか、次の回で説明をお願いします。
- スクールバスやコミュニティバスの運用という事ですが、具体性が全くないので、どういった内容でやっていくのか、もっと突っ込んだ内容にしていだければと思います。
- 説明会についてですが、わざわざ全日警ホールまで足を運ぶ人はいないと思います。地域においてやっていただくのが一番だと思います。
- コミュニティバスは、次回にもっと具体的な話になるようお願いします。
- 説明会の会場については再考させて頂きます。コロナ禍の関係で、とにかく広い会場をということで設定をしたのですが、例えば回数を多くして公民館で開催するなどの形を考えさせて頂きます。申し訳ありませんでした。
- 少し整理をしながら、次回に向けて考えていただければと思います。次回は保護者の方の意見を踏まえての検討になりますので、また建設的な意見を頂きたいと思っています。